

# 「高校英語授業のアップデート：直面する課題と授業改善の見通し」

津久井貴之氏（群馬大学）

## 【講演要旨】

大幅に改訂された今回の学習指導要領に基づき、小・中学校ではさまざまな実践が蓄積され、新たに生じた指導上の課題を改善するサイクルに入りつつあると感じている。一方、高等学校は、2023年度高3生が卒業を迎え、「新課程」で3学年がそろそろ2024年度に、ようやく学習指導要領改訂に基づく本格的な授業改善のスタートラインに立つところだろう。小・中学校とは異なり、高等学校では学習指導要領が年次進行で実施される。実際、「旧課程」、「新課程」と呼ばれる2つの教育課程が存在した中で、年次進行の歩みのスピードを超えて全学年で授業改善が進められてきたケースは少ない。

このような現状認識に立ち、講演では、以下の3点に焦点を当て、指導事例や課題について触れ、今後求められる授業改善の方向性について考察する。まず、言語活動をゴールに据えた単元づくりのための単元構成や指導・評価計画について述べる。次に、「話すこと」や「書くこと」領域の言語活動における「思考力・判断力・表現力」の捉え方について述べ、そして、ICT活用から見えてきた指導改善と英語教師の役割に触れる。

最後に、中・高等学校の指導経験を経て、大学で学生に英語を指導する立場から、大学で何ができるかと思っていたか、できているか、できていないか、思い描いていたことと現状、そして課題についても振り返ったことを共有したい。



津久井貴之（つくい たかゆき）

群馬大学共同教育学部英語教育講座講師

群馬県内国公立中学校、中高一貫校教諭、県教育委員会指導主事、都内国立大附属高等学校、私立中高一貫校教諭等を経て2022年4月より現職。中学校学習指導要領執筆、令和元年度全国学力・学習状況調査作問・分析等に関わる。小・中・高等学校検定教科書著者。中・高等学校の指導法、特に教師の英語使用について研究している。